

北前船寄港地

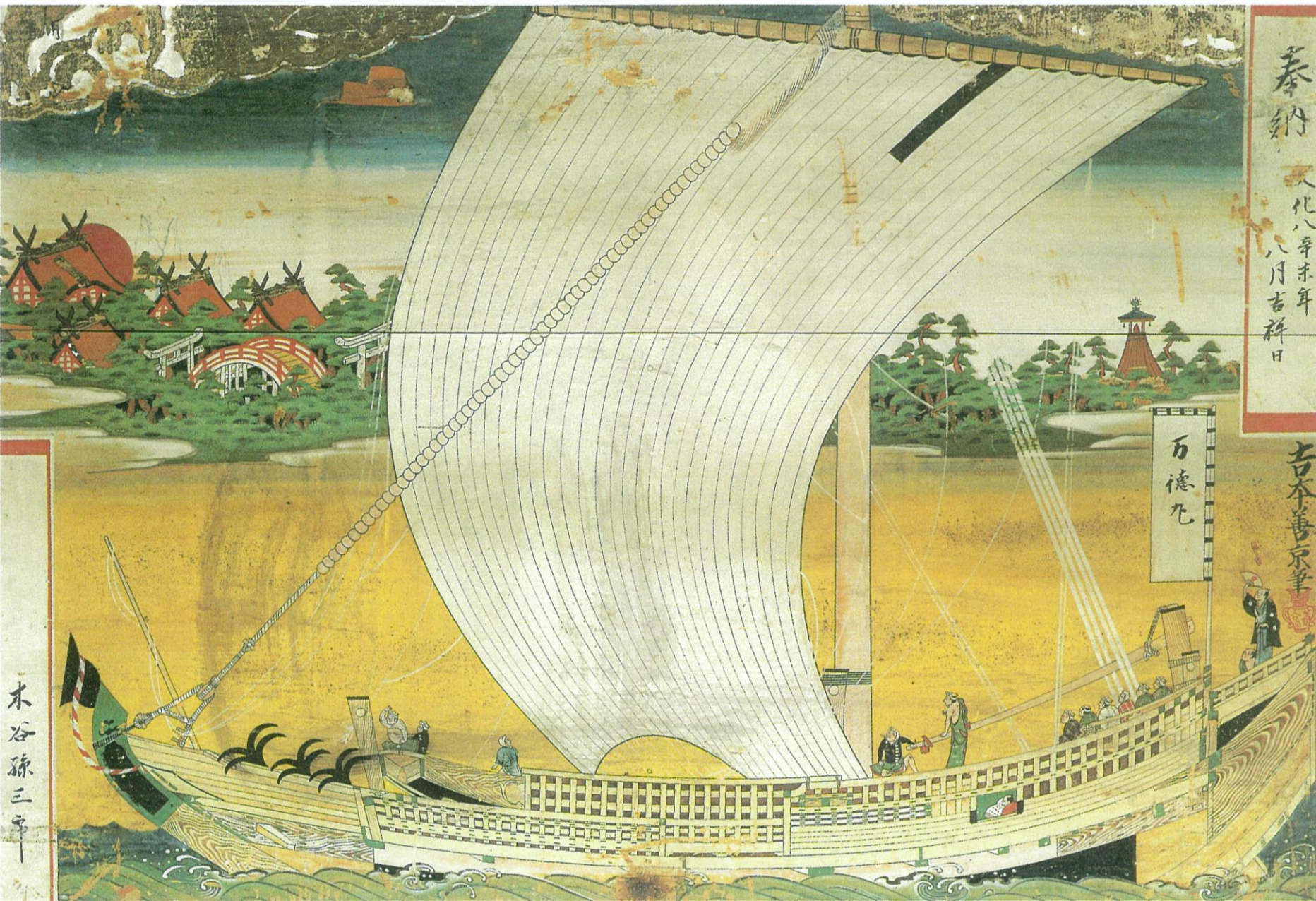


奉納

文化八年未年
八月吉祥日

吉本善京筆

万徳丸

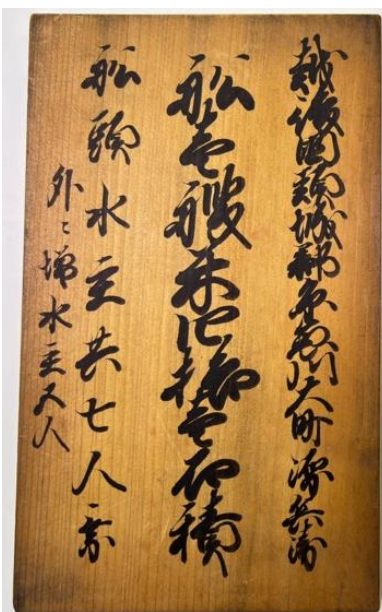


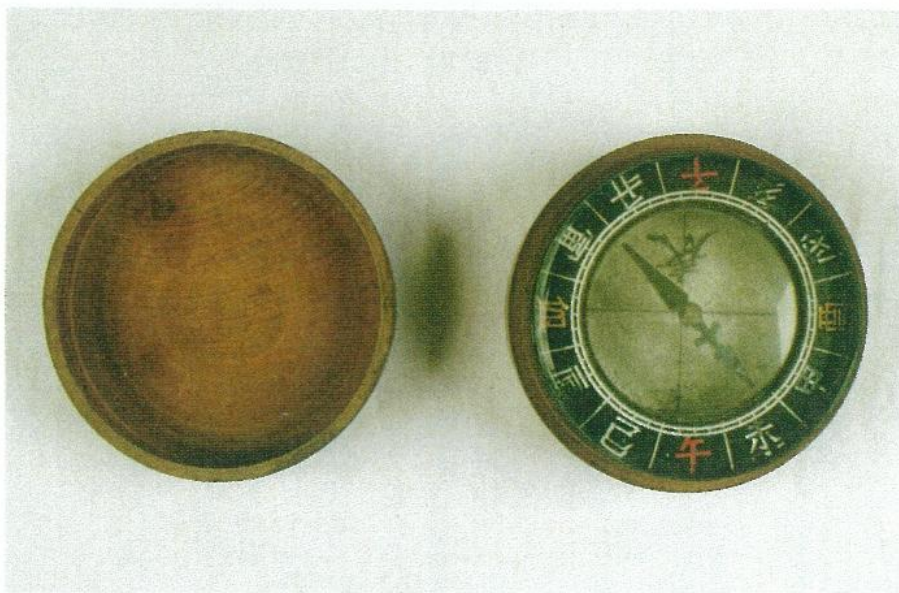
木谷孫三

19世紀前期の弁才船(A) 船首尾の反りがやや大きくなって、北前船の特徴が出はじめた、文化8(1811)年の奉納。船絵師が落款を入れた最初の例だが、初代吉本善京の絵馬は写実に徹し、船体などは図面的正確さで表現されている。奉納者

は7代木屋藤右衛門の長子。木屋は加賀藩の代表的海商で、経歴・実力とも成りあがり者の銭屋五兵衛とは格が違っていた。万徳丸は天明6(1786)年のものが28反帆・1400石積なので、29反帆(約1600石積)のこの船は、その次の代のものであろう

(1786)

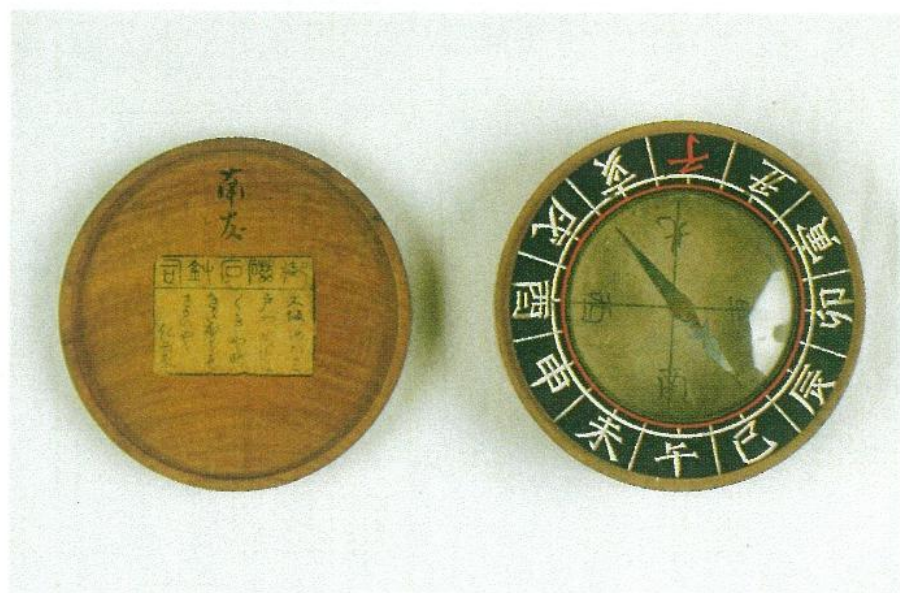




20 和磁石（逆針） 近代

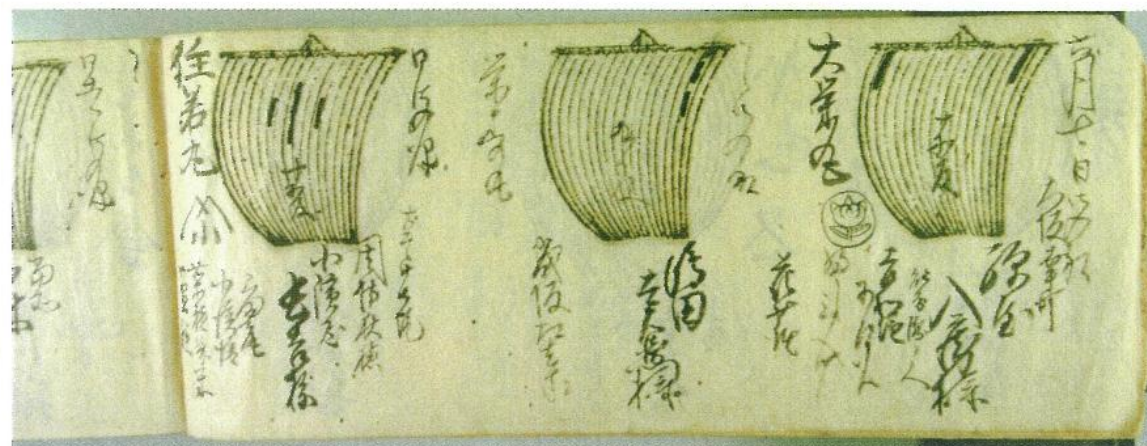
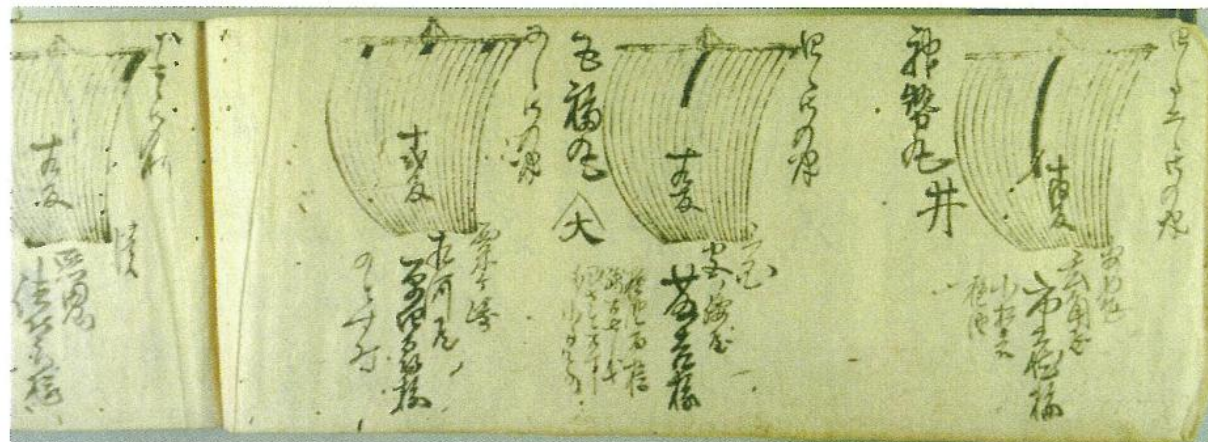
兵庫・豊岡市教育委員会蔵（北前館保管）

和船が航海で用いた方位磁石。方位を正方向の回りで刻んだ本針と、逆回りで刻んだ逆針とがある。逆針の磁石は、目盛りの北（子）を船首方向に据え付けて使われた。このように用いると、磁針が示す方位が目盛り上で船の方位に相当することになり、船の方位を示す道具として用いられた。（前田）



21 和磁石（本針） 近代

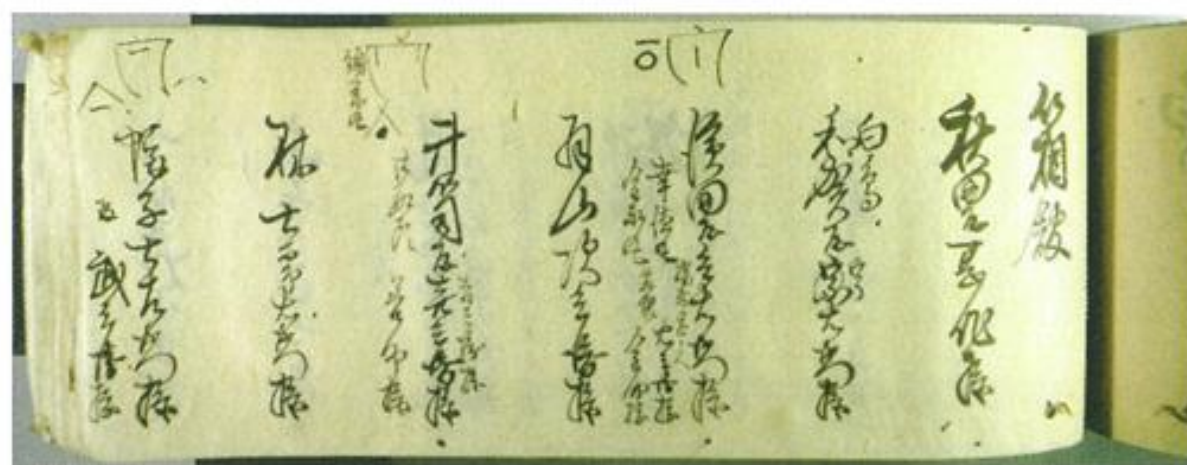
兵庫・南京達巳氏蔵、北前館保管



32 御客上下帳 嘉永7年（1854）～

新潟・出雲崎町教育委員会寄託 熊木屋文書

出雲崎の廻船問屋、熊木屋を訪れた廻船（顧客）を書き留めた名簿。入津月日、船籍地、船主、船頭名、廻船の大きさ、帆印、家印、積荷、商売の結果、出帆月日が記されており、出雲崎に入津した船と産物を知ることができる貴重な資料である。（田邊）



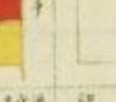
33 永代御客帳 享保2年(1717)～嘉永4年(1851)

新潟・出雲崎町教育委員会寄託 熊木屋文書

廻船問屋熊木屋が取り扱った諸国の廻船を、国別・湊別に整理したもの。この佐州・越後・羽州・奥州のものと、加賀・能登・越中のもの、西国のものの3冊からなり、記載された廻船主の分布は蝦夷地から出羽、越後、佐渡、北陸、山陰、九州、四国、瀬戸内、上方から伊勢湾に面する知多半島の^{うづみ}内海（現愛知県）まで広範囲にわたっている。（田邊）

山形縣酒田港信號旗圖解

明治廿三年十月戊辰新設旗信號圖解

 ワ	 リ	 赤	 イ
精米ノ通ハ特賞	心ヲ船ニ載ル	申合信号	水戸深淺教示旗
 カ	 マ	 ハ	 口
コト船一艘ニ載ル	マノナ船	印尺九	印尺五
 コ	 ル	 ト	 ハ
ストセ港入船客	コト船走人	印尺一	印尺六
 ク	 ケ	 ケ	 ニ
コセ意用ノ面	ノ山名種ヲ示ス	印尺七	
廻船問屋 菅原喜助			
羽後國飽海郡酒田港			
 リリ	リリ 船中留生用事船セテ	リリ 船中留生用事船セテ	丸例

酒田（山形） 菅原喜助



赤間関 (山口) 山村茂



境港 (鳥取) 山本貞市



三国 (福井) 海東為介



豊岡 (兵庫) 亀井弥七郎



舞鶴 (京都) 近藤彦兵衛



加茂 (山形) 秋野与四郎



博多 (福岡) 深江屋惣平



鳥取 (鳥取) 山田商店



直江津 (新潟) 清水仙造



能代 (秋田) 谷内忠吉



新潟 (新潟) 西村治郎助



尼瀬 (新潟) 野崎久四郎

